

(論 文)

依頼の機構—日英における発話事象の対照研究

宇 野 沢 和 子

キーワード

依頼 談話分析 機構 発話事象 文化対照語用論

1 序論

依頼は、日常の言語活動において、重要な位置を占め、異なる状況と文脈において、様々な表現形式を取る。本稿の目的は日本語と英語における依頼をめぐる機構を発話事象において捉え、その対照研究をすることである。そして、機構を規定する要因である発話者の社会的距離や性差、年齢、力関係や性格等との関連で対照研究をすることである。また、量的研究よりも質的研究を重視している。

佐々木は「依頼」にもっとも近い英語の言葉が“request”であるが、この二つの意味領域が完全に重なっているわけではないと指摘し、「話し手への恩恵賦与を伴う行為に関する、聞き手になんらかの選択の余地を残した指示行動」と規定し、大きく“request”の意味領域を含めた方向を考えている(佐々木1995:65)。本稿ではこの定義に従う。日本語の依頼を扱った論文において、中道・土井は「依頼も親しい相手ならその表現形式は簡素なものになるし、権限をもって指示する場合でも、丁重に扱う相手に対しては待遇レベルの高い形式を用いなければならない…また用いられる言語形式の語彙的本来の意味と、実際の場面における発話の意味としての行為要求の種別は、必ずしも一致しない」(中道・土井1995:84)と述べている。日本語と英語とでは、待遇表現などに、差がみられるが、このような傾向な英語においてもみられ、また言語形式についての指摘もあてはまる。

発話事象(speech event)という概念は、発話を文脈の中で捉え、言語の用法を異文化間で研究する際に有効である。それは言語を文化の中で認められている社会行為という考え方であり、特にその行為の中で、ある特定の役割を演じる場合のものである(cf.Bauman & Sherzer 1989, レヴィンソン1990:351)。

国語国立研究所の研究に基づき、中道・土井によれば、日本語の依頼の談話構造は以下の通りである(中道・土井1995:89)。

行為の依頼→(説明の要求)→事情説明→(提案の提示)
 →要求の了解(→感謝の表明→行為の申し出/提案の提示)
 /要求の拒絶(→提案の提示→受諾の要求/行為要求の撤回)
 →話題の収束

中道・土井によれば、「これは、依頼の談話を構成する主要要素とそれらの典型的な出現順序を示したもので、実際の談話例では、このすべての要素が現れるとは限らないし、出現にもさまざまバリエーションがありうる」という。また、基本的に大きく分けて二つの段階、つまり、1. 依頼する側が依頼内容を提示するまでの多少とも一方的な段階、2. 依頼される側が何らかの反応をしめしはじめてからのインターアクションの段階があり、この二つは明瞭な境界を持たなかったり、順序が入れ替わったりすることがあるという。

本論はこのモデルに基づいて、もっと細部の依頼の構造とそれを規定すると考えられる文脈上の要因について、日英語の比較を通して考察する。なぜなら、一般化した図式としては妥当ではあっても、一般化しすぎているので、本論では、依頼の発話行為とそれをとりまく発話事象を構造を規定する変数に着目し、この図式を日英の談話においてとらえ、談話を紹介しながら日英の差異を論じる。この中道・土井論文では構造の定義がなされていないので、またこの用語が様々な文脈や分野において異なる使われ方がされているので、本稿では、「機構」という用語を用いる。機構(organization)とは全体的機構(overall organization)、つまり、「ある特殊な会話のやりとりを一つの総体としてみてみようとするもの」(レヴィンソン1990:382)という定義に基づいている。

またAustinらの発話行為(speech act)(Austin 1962)の概念についてであるが、発話行為理論への批判は「文脈抜きの内省的判断に依存し、概ね、自然に生起するデータも発話行為の連鎖も無視してきた」(スタップス1989:179)などがある。このような批判を踏まえ、本稿では、さらに、この概念を発展させ、広く文脈の中で発話を捉えるアプローチを取る。

(1) データの収集の仕方

談話はある状況を設定し、英語母語話者(4人)、日本語母語話者(9人)に作為的に自分がどのような発話をするかを予想してもらい、書いてもらった。その状況とは以下の通りである。

あなた(A)は明日から海外旅行に行くので、朝5時半に起きなければなりません。家族、友達、または、恋人(B)に電話で起こしてくれるように頼むとき、どのような会話が行われるでしょうか。(相手の返事はYesでもNoでもよい)¹

このアプローチに対して作為性の批判が考えられる。作為性への批判としては、自然に生起するデータではなく、実際の発話者のやりとりとはかけはなれたものになるというものがある。社会言語学の調査は作為的なデータに基づく調査は広く行われてきたが、やはり、実際の現象を捉えるという点において限界がある。そのため、本稿では3例ほど筆者も発話者として加わった自然な談話例(英語2, 日本語1)も集めた。この電話内容はすでに、作文を依頼したインフォーマントに作文を督促する電話(英語の例)と新たに作文を書いてほしいという依頼の電話である(日本語の例)。この生の談話は筆者が依頼者なのであるが、偏重バイリンガル、つまり二言語間の能力に差のある状態(山本1991:19)であり、英語よりも日本語の方

ができるが、英語に関しては、日常生活、仕事において英語では不自由しないので、データとして適当であると判断した。GrimshawはBauman & Sherzer (1989) の論文集の中で、言葉の民俗誌からの観念のデータ収集の方法論に関して、インフォーマントからデータを引き出す場合 (elicitation)、談話に関連した重要な変数も特定できる意義を述べている (Grimshaw1989)。もちろん、この場合、研究者がその文化の談話に関する知識を有することが前提になるだろう。

(2) 先行研究

依頼の先行研究は、発話行為理論とBrown & Levinsonが発端になったポライトネス研究が中心のものが多い。文化対照語用論 (Cross-cultural Pragmatics) の研究の例として、BlumKulka (et al.1989) やFukushima (2000) がある。Blum Kulkaの研究はCCSARP (Cross-cultural Speech Act Realization Project) というアンケート調査による依頼と謝罪の研究であり、被験者は依頼か謝罪の発話を穴埋めの形で設定された状況ごとに書いた。その発話行為が起こる社会的、状況的変数の考察をした。7つの言語 (オーストラリア英語、アメリカ英語、イギリス英語、カナダのフランス語、オランダ語、ドイツ語、ヘブライ語) が研究対象だった。その意義は文脈の中で発話を捉える試みであったことであり、また従来の対照研究の比較単位は二言語が多かった。Fukushima (2000) は、イギリス英語と日本語のポライトネスに関する対照研究で、予備調査に基づき、被験者が依頼行為にみられる状況の変数、例えば、依頼者と受け手の力関係、社会的距離、依頼行為の押しつけがましさ、などを評価した。その結果、二つのグループでは状況の変数について異なる評価がみられた。力の相違や社会的距離は日本よりイギリスの方が差が大きく見られたが、依頼の押しつけがましさは、シチュエーションによって異なる結果が見られて。そして二つの文化的状況において、依頼についてBrown & Levinson (1978) のポライトネスモデルを発展、検証し、依頼研究をする際にイギリスと日本の文化的枠組みを提示した。その意義はBrown & Levinsonの批判的検討をしたことや、二つの文化の依頼に関する量的調査を行った点にある。

さて、Blum Kulkaらの研究の批判点は以下の点に集約できる。それはアンケートの作為性であり、穴埋め式のアンケートを調査の時用いたが実際の発話場面においては、応答は予測できないこと (Fukushima2000:134) と、そして文化の定義が自明のものとして扱われている (Watts2004:70-71) などである。Fukushimaに関してはWattsによれば、言語分野におけるポライトネス研究にはなっていない (Watts2004:12)。

依頼の研究は英語でも日本語の文献でも、Brown & Levinsonのポライトネス理論との関連のものも多く、また日英対照研究の例をみると、待遇表現とポライトネス解明との関連の研究が目につく (佐々木1995:63)。Brown&Levinsonは依頼をFTA (Face Threatening Act=フェイスを脅かす行為) として捉えたが、それは、彼らのポライトネス理論における中心的概念である。face (フェイス) にたいしては個人主義的概念を想定し、それが欧米中心の概念であり、たとえば、どちらかというと個人主義的な社会でない日本や中国、その他の社会にはあてはまらないという指摘が日本や中国人らの研究者からあった (Watts2004)。Brown & Levinsonのポライトネス研究を再検討したWattsはMatsumoto (1988) に言及し、日本においては相互作用や言語の中でどのように社会関係を捉えるかをしめし、negative face (立ちいられたくないという要求) は日本文化の理解には不適切で、個人のメンツよりも成員間同士がお互いをどう認識するかが最優先であると述べている (Watts 2004:102)。Wattsによれ

ばポライトネスの理論はface中心であってはならないとしている。

またWierzbicka (2003) は、ポライトネス理論の普遍性を追究しようとしたここ20年の対照語用論の研究動向を批判している。Wierzbickaによれば、1980年代から1990年代にかけて語用論の分野での対照研究は英語圏中心の自民族中心主義からの観点の研究が多く、文化対照語用論にとって壁であり、文化における言語の差異に着目する必要性を提唱している。Wierzbickaは2003年の著書で、英語中心の言語行為の用語を使用するよりも（例えば英語におけるrequest）、それぞれの文化固有の概念に着目し、その上、以前よりも普遍的な用語を使用する必要性—たとえば、どの言語にも共通のgood, bad, think, say, know, want—を論じている。

従って、本稿ではポライトネス研究におけるFTAなどの概念から談話における依頼の発話行為を分析することは避ける。

インフォーマントに電話の談話を書いてもらうように頼んだのには理由がある。電話に関する談話の研究は欧米では主に、開始（opening）と収束部（closing）と内容の操作に分けられ、特に開始部の部分の研究が多い（cf. Luke 2002）。異なる文化において、差異がみられることも報告されている。Yotsukuraの研究のように、日本におけるビジネス会話での問題解決とサポートの仕方のストラテジーを扱ったものもある（Yotsukura 2002）。この中で、付録にビジネス電話の「構造」を載せている。電話はLukeが指摘するように、日常の生活における通常の談話と違って、文脈の変数がより限定され、話し手、聞き手同士がお互いが見えない状況にあるので、比較の対象として研究しやすいという特徴があり、日常の談話にはない特質も備えている。

本稿の構成についてだが、2章は典型例と仮説の提示、3は談話例の紹介（作為例、自然な談話）、4は仮説の検証と考察、5は結語6は付録である。

談話例の紹介²では（2仮説のための典型例、3談話例）談話にみられる機構と特徴をそれぞれまとめた。とくに留意したのは特徴の詳細な記述である。仮説の提示では16の事例のうち、二つの例のみが、要求の拒絶のやりとりが行われた談話だったので、行為の依頼に対し、要求の了解をした場合のみ（14例）について仮説を立てた。

2 仮説の提示

談話の典型例を通して、日英の依頼の機構に関する仮説を立ててみたい。それぞれの談話の後にその機構と特徴をまとめる。序論で述べたように要求の了解がみられた談話例（談話1～3）に焦点をあて仮説を立てるが、参考までに、要求の拒絶例（談話4）も紹介する。筆者が依頼をした相手は、英語例の場合（2章、3章）は大学に勤めている同僚の教員であるが、日本語の場合は友人、家族や学生であった。英語の談話の訳は付録にまとめた。

4 (1) 談話の典型例

（談話1）

A is Susan (35, Canadian) and B is my friend Mary (31, Australian) both are females?

1 A : Hi Mary! How are you?

2 B : Fine thanks, and you?

3 A : Well, I am just packing and almost ready to go.

- 4 B : Oh, that's right. You are leaving tomorrow, aren't you? Are you excited?
- 5 A : To tell you the truth, I haven't had a chance to think about it. I have mixed feelings about it, actually. I don't like the idea of being away from Tom for so long.
- 6 B : Oh, you will be fine! Just enjoy being home and spending time relaxing with your friends and family. I am envious(sic)! I will be stuck in hot and humid Tokyo!
- 7 A : I will be thinking of you! By the way, my flight is at 9:00 a.m...
- 8 B : Really? So early? You have to be at Narita by 7:00 then?
- 9 A : Yes, that's right and I am worried about waking up. I need to get up by 5:30 at the very latest.
- 10 B : That sounds tough!
- 11 A : So, I have a favour to ask you. Can you possibly give me a wake up call at 5:30? I have my alarm set for 5:00 and for sure, I will snooze for as long as possible. But if you could call me, that would be great! I know you get up early anyway for work...
- 12 B : Of course! It would be my pleasure to make sure you get yourself out of bed on time for your vacation!
- 13 A : Thanks darling! I know I can count on you.
- 14 B : Okay, then. You should probably get to bed then!
- 15 A : Okay, good night and thank you. Of course, I will keep in touch!
- 16 B : Nighty night!

< 依頼の機構 >

依頼の開始の事前発話 (3 A → 4 B → 5 A → 6 B) → 依頼の談話の開始・事情説明 (7 A, 9 A 婉曲) → 行為の依頼・提案の提示 (11 A) → 要求の了解 (12 B) → 感謝の表明 (13 A) → 話題の収束・感謝の表明 (14 B ~ 16 B) → 話題の収束 (事情の説明 (3 A ~ 11 A))

< 談話の特徴 >

この談話の特徴は全体のトーンが明るく、両者ともに相手の応答に対して前向きであり、積極的である。発話の細部から、談話を通して、友情の確認をし、また両者の交際は自立した個人の応対という印象を受ける。また女友達同士のこまやかなやりとりが丁寧でざっくばらんな表現に表れている。

a. 談話収束までのやりとり

7 A - 9 A は A の遠回しな依頼の段取りである (7 A ~ By the way, my flight is at 9:00 am...). 依頼の切り出しは By the way である。ひきつづき、9 A で I'm worried about waking up. I need to get up by 5:30 at the latest と言って状況をほのめかす。依頼は端的であり (11 A), 目覚ましをかけるという自助努力の表明と、電話をかけてほしいという助力の要請をする。B は依頼に対して快諾をする (12 B ~ It would be my pleasure)。

A は依頼の説得術として、行為の依頼は感謝の表明と同時にしている (11 A ~ If you could call me that would be great!) また B が仕事で早く起きることも言及している (11 A ~ I know you get up early anyway for work = You get up early enough to wake me up)。B は相手に早く寝るよにという自助努力の要請をして (14 B)、A は

両者の交際継続の意志表明をする (15A ~ Of course I will keep in touch.)。

- b. 依頼の表現→11 A So I have a favour to ask you...Can you possibly give me a wake up call...But if you could call me (Aの依頼の説明の仕方は滔々と)
- c. 感謝の表現→A 6, A 7, A 8 (that would be great/ Thanks darling/...good night and thank you)
- d. 同年代の女性で友人同士の談話→5 A Tom=boyfriendとの別離はつらい 7 A I will be thinking of you 6 B Oh, you will be fine...Just enjoy being home... I am envious (sic) 10 B That sounds tough 13 A Thanks darling! I know I can count on you 15 A Of course, I will keep in touch! 16 B Nighty night!

(談話2)

A: 女性 48歳 B: 女性 同年齢 友人 同業 (グラフィック・デザイナー)

1 A: 久しぶり 元気?

2 B: 元気だよー!

3 A: 突然だけど 明日イタリアに行くんだけど

4 B: えー! 何しに行くの?

5 A: 仕事と遊び半分半分かな

6 B: フーン で 何処に泊まるの?

7 A: 今回はMILANOがメインでウンブリアにも足を伸ばす予定なんだ

8 B: イイナー 今度は一緒に行こうヨ

9 A: そうだね! あ それから明日早いんだけど 起こしてくれない?

10 B: 何時?

11 A: 5時30分なんだけど...

12 B: ダンナとムスコに頼めば...

13 A: それが当てにならなくてネ...

14 B: 分かった 電話するからしっかり起きてヨネ

15 A: 助かった! ヨロシクネ お土産買ってくるから楽しみにしておいて

16 B: 分かった 沢山買って来てね!

17 A: 了解! じゃあ 遅いから切るね

18 B: うん

19 A: おやすみ! CIAO!

20 B: おやすみ!

<依頼の機構>

- 6 事情説明 (3 A, 5 A, 7 A) →行為の依頼 (9 A) →対案の提示 (12 B) →受諾の婉曲な要求 (13 A) →要求の了解 (14 B) →感謝の表明・贈り物の約束 (15 A) →話題の収束 (17 A, 18 B)

<談話の特徴>

信頼しあう友人で自立した個人同士の談話という印象を受ける。

- a. 談話収束までのやりとり

最初のAの事情説明の仕方は質疑応答の形をとる。行為の依頼の切り出しは「あ、それから」である。近況報告(1A, 2B)のあと、Bは「今度是一緒に行こう」と旅の誘いをし、これは友情の表明と考えられる。Bの行為の依頼に対して、Bは要求の婉曲な拒絶をする(12B)、Aが夫と息子が頼りにならないという発話に対して、快諾をする(14B)と同時に「しっかり起きて」と自助努力の要請をする。事情説明も行為の依頼も滔々としなない。

- b. 依頼の表現→「あ それから明日早いんだけど起こしてくれない？」(9A) 受給表現
- c. 感謝の表現→「助かった！ヨロシクネ」感謝の印＝「お土産買ってくるから楽しみにしておいて」
Bの感謝の表現＝「沢山買ってきてね！」#わびの表現はなく感謝の表現として間接発話行為がみられる。
- d. 女性同士のやりとり
女性ことば＝「…ね」(13A, 14B, 16B, 17A)

(談話3)

A：自分、22歳、男

B：友人、22歳、男

AからBへ電話

1 A：「……もしもし」

2 B：「もしもし、A？」

3 A：「うん」

4 B：「どうした？」

5 A：「いや、ちょっと悪いんだけどさ」

6 B：「うん」

7 A：「明日の朝起こしてくれない？ モーニングコールってやつ」

8 B：「は？ 何で？」

9 A：「あー、明日からちょっと海外旅行行くんだけど」

10 B：「まじ？ どこ？」

11 A：「○○(国名)。あと時間があれば△△も」

12 B：「まじか。いーな～。何泊くらいすんの？」

13 A：「いちおう7泊9日、かな」

14 B：「え？ 7泊8日じゃなくて？」

15 A：「あぁ、なんか時差の関係かなんかで」

16 B：「ふーん」

《中略》

(旅行の話か、全然関係ない話がしばらく続くと思われるので)

17 A：「そんでさ、明日起こして欲しいわけよ」

18 B：「あー別に良いけど……何時？」

19 A：「5時半」

- 20 B : 「はあ?! 早くね?」
 21 A : 「いや、11時くらいには成田に着かなきゃ行けないんだわ」
 22 B : 「……」
 23 A : 「で、6時過ぎに家出るとしてもこんくらい見ておかないとダメかなーと」
 24 B : 「……まあいいけど」
 25 A : 「わりい」
 26 B : 「……つか、普通に目覚まし掛けりゃいいじゃん」
 27 A : 「いや、時計に目覚まし機能無いんだわ」
 28 B : 「じゃあいつつもどうしてんだよ」
 29 A : 「携帯のやつ」
 30 B : 「おい! じゃあそれ使えよ」
 31 A : 「いや、もちろん使うけどさ、万が一寝過ごしたらやばいから」
 32 B : 「……しゃーねーなー……。オーケー、じゃ、お土産な」
 33 A : 「おう、わかってるって」
 34 B : 「期待してるわ」
 35 A : 「ああ」
 36 B : 「で、何時だっけ? 5時半?」
 37 A : 「そう、頼むな」
 38 B : 「オッケ」
 39 A : 「じゃ、早めに寝るわ」
 40 B : 「ああ、そうだな、じゃオレももう寝るわ……」
 41 A : 「じゃな」
 42 B : 「ああ」
 通話終了

<依頼の機構>

依頼の談話の開始 (5 A) → 行為の依頼 (7 A) → 事情説明 (9 A → 15 A) → 行為の依頼 (17 A) → 依頼の婉曲な拒絶 (26 B, 28 B, 30 B) → 要求の了解・贈物の要求 (32 B・34 B) → 贈物の要求の確認 (33 A・35 A) → 行為の確認 (36 B・37 A) → 話題の収束 (39 A ~ 42 B)

<談話の特徴>

20代前半の男性で友人同士の談話であるが、AもBも消極的な対応の仕方をして、最後は行為の依頼を断ろうとしていたBは断りきれず、あきらめて受諾をする。自立した者同士の談話というより「甘え」に基づいた依存関係という印象を受ける。

a. 談話収束までのやりとり

Aは「いや、ちょっと悪いんだけどさ」と切り出したあと、唐突に行為の依頼をする(7 A)。そしてすぐ本題に入らずよもやま話をする。その後再度行為の依頼をする(17 A)が、Bはすぐ承諾せず躊躇をする。Bは対案をいくつか出すが、結局断りきれず、あきらめ要求の了解をする。その対価としてお土産の要求をする(32 B)。それに対してAは承諾をするが(33 A)、きわだった感謝の表現がない。この間の交渉はBの依頼

受諾からの逃げ道の模索と質疑応答に特徴づけられる。最初の依頼の後の事情説明は質疑応答の形ですすむ（8B－16B）。依頼内容の確認（36B－38B）は電話における談話の収束の一段階と考えられる。AとBは個別に早く寝ることという発話をするが、談話1や談話2のように自助努力の要請はない。

- b. 依頼表現→「明日の朝起こしてくれない」という受給表現の丁寧度は親密な関係を表している。
- c. 20代男性の友人同士の会話→「ちょっと悪いんだけどさ」「いつもどうしてんだよ」「おい！　じゃそれ使えよ」「じゃな」

（談話4）

A：Paul アメリカ人 中年 B：Paul の兄

Below are two variations on the imaginary conversation that you asked respondents to write. The first one is with my brother, and the second is with my wife（3. データ：談話11参照）Although they are both terse, they are also, I think, quite realistic. I should also add that the premise of both conversations is that I'm calling from a hotel close to the the Los Angeles Airport; ergo the conversation in which I'm calling my wife who is in Japan.

To MY Brother

1 A：Hi, John. I have to catch my flight back to Japan really early tomorrow. Could you call me at my hotel room at 5:30 tomorrow morning?

2 B：Doesn't your hotel have a wake-up call service?

3 A：Yes, but I'm not sure if I can rely on them.

4 B：Well, you'll either have to trust them or go around to K-Mart before they close and buy an alarm clock. I'm not getting up at 5:30 just to wake you up.

（End of conversation.）

<依頼の機構>

事情説明・行為の依頼（1 A）→要求の拒絶（婉曲）（2 B）→事情説明（受諾の要求～婉曲）（3 A）→要求の拒絶・提案の提示（4 B）

<談話の特徴>

兄弟同士の談話であるが、行為の依頼をされたBはぶっきらぼうな応対をする。Aは単刀直入な依頼の仕方をする。Bは婉曲に断ったあとで、端的に要求の拒絶をする。

- a. 依頼表現→“Could you call me...?”（1 A）～Bは兄弟だがAは比較的丁寧な定形の表現をする。

9

（2）依頼の機構についての仮説の提示

（談話1、談話2、談話3）に基づいて以下の仮説をたてる。序論で述べたように、中道・土井は依頼の談話構造について一般的図式を提示したが（中道・土井1995）、この図式では一般的すぎ、話し手の社会的距離、年齢、力関係や性格などの変数がどのように談話の構造を規定するのが明確ではない。筆者の仮説はこれらの変数が、ある程度、機構に影響

を及ぼすものであり、典型的と思われる談話例に基づいて依頼の機構に関して以下の仮説をたてた。

(a) 要求の了解の場合（日本語の場合）

二つのパターンがみられる。

1. 依頼の事前発話～近況等→(2) 事情説明→(3) 行為の依頼→(4) 要求の了解→感謝の表明（談話2）

比較的自立した者同士の談話例

2. 行為の依頼→事情説明→要求の了解（談話例3）

依存関係が強く談話例に反映される場合

(b) 要求了解の場合（英語の場合）

依頼の事前発話～近況等→事情説明→行為の依頼→要求の了解→感謝の表明（談話1）

(a-1)とbでは機構のパターンが基本的に同じでも、日本語の談話の方が滔々と説明をしないなど差異がみられる。また (a-1), (a-2), bのあとの感謝の表明と要求の了解のあとは、談話により、他の段階、例えば (a-2) において行為の確認などの段階が入るが、その後で、談話が収束する。従って上記の機構は話題の収束を省いた。

3 データ

仮説の検証のためのデータ、その機構や特徴を提示する。談話5～9まではAが依頼した相手（B）は友人であり、談話10～13までは相手が家族の成員である。

(1) 作為例

(談話5)

A : George, 45 yrs. old, American:

B : Stewart, 41 yrs. old, Australian:

1 A : Hi Stewart, this is George, how are you doing?

2 B : Not bad, just had a long day at work is all.

3 A : Say, could I ask you a huge favor?

4 B : As long as it's not a loan for money! Haha.

5 A : Not that problem, even though I could use a loan! haha. Seriously, I have to get up at 5:30 tomorrow morning to make sure we caught our flight to America on time. Could you give me a wakey wakey call round about that time mate? I'll be setting our alarm but just for assurance, your call would be appreciated.

10 6 B : No worries, I'll set my alarm and call you then. Do I get a present for this when you come back from the states?

7 A : Sure, I'll bring you something sweet, how about some world famous New England maple syrup to pour on your pancakes?

8 B : Sounds great! Have a good trip.

9 A : Thanks, later man.

<依頼の機構>

事情説明・行為の依頼（3 A, 5 A）→要求の了解・贈り物の要求（6 B）→贈答の了解（7 A）→感謝の表明（8 B）→感謝の表明（9 A）

<談話の特徴>

友人同士の屈託のない談話である。全体のトーンは明るく、両者の態度は積極的である。AとBの親密度は二人が交わす冗談に表れている。eg. “As long as it’s not a loan for money! Haha”

“Not that problem, even though I could use a loan! haha.”（4 B, 5 B）冗談のあとAが滔々と説明し、Bが快諾（6 B）。

a. 行為の依頼→“Say, could I ask you a huge favor?”（3 A）＝端的

（談話6）

自分：A（18歳、男） 友達：B（男）

1 A：おう！ おれだけど。今ちょっといいかな。

2 B：うん。いいよ。

3 A：前にも話したと思うけど、おれ明日からアメリカに行くんだけど飛行機の関係で朝の5時半に起きなければいけないんだよね。でもおれ朝は苦手で5時半に起きられるか自信が無いんだよね。悪いけどその時間に電話で起こしてくれないかな～？

4 B：ああ。いいよ。おれは明日実家に新幹線で帰るつもりで、朝の5時に起きようと思ってたから、全然問題ないよ。

5 A：ありがとう。じゃあよろしくな！ 5時半までに起きられたらメールするよ。アメリカでいっぱいお土産買ってくるよ。

6 B：おっマジで？ ありがとう。それじゃまた明日。

7 A：うん、じゃあね～。

<依頼の機構>

事情説明・行為の依頼（3 A）→要求の了解（4 B）→感謝の表明・贈り物の約束（5 A）→感謝の表明（6 B）→別れの挨拶（6 B・7 A）（話題の収束）

<談話の特徴>

AとBは行為の依頼に対して前向きで積極的な態度をとっている。Aの端的な依頼に対して、Bは快諾をし、それに対して、Aは感謝をして、お土産の約束をする。Bもまた感謝の意を表す。

依頼表現→「悪いけどその時間に電話で起こしてくれないかな～？」

11

（談話7）

A：女性、72歳 B：女性、同年代

1 A：田中さん、こんにちは（ママ）。お元気ですか。実は明日からニューヨークに行くことになったの。朝5時半に起きなければいけないんだけど、朝に弱い私にとっては、ちょっと心配で、朝早く申し訳ないけれど、電話で起こしていただけないかしら。

2 B: ちょっと自信がないけれど、いつもお世話になっているので、頑張ってお返ししてあげるわ。帰ってきたらお土産話を聞かせてね。充分楽しんでいっちゃい。

<依頼の機構>

事情説明・行為の依頼 (1 A) → 要求の了解 (2 B)

<談話の特徴>

BはAの依頼に、遠慮がちに「ちょっと自信がないけれど」と消極的だが、受諾する。AとBの関係は互助的で、Bは「いつもお世話になっているので」と言う。これは付き合いの決まり文句でもある。Bの「土産話を聞かせね」というのはAに対するBの友人としての配慮の現れ、であり「充分楽しんでいっちゃい」は友人を旅に送り出す言葉である。

- a. 依頼表現→「朝早く申し訳ないけれど、電話で起こしていただけないかしら」わびの表現とともに、「てもらう」の謙譲表現が使われていて、他の談話の依頼表現よりも丁寧である。
- b. 女性ことば→A「ニューヨークに行くことになったの…電話でおこしていただけないかしら」B「頑張って起こしてあげるわ…土産話をきかせてね、充分楽しんでいっちゃい」

(談話8)

A: 佐藤 (83歳) B: 鈴木; 退職前の部下 (77歳)

1 A: 鈴木さん、お元気ですか。16日の日経イタリヤ短期留学の記事見ましたよ。

<矢張り本場は違う。目からうろこが落ちるようだった。> とは何ともインパクトあるね。オペラなどイタリヤ歌曲は声楽の本流、本場の先生について、まさにシングル入りだね。もうとっくシングルだけど。晩年好きな趣味に没頭できるなんて、素晴らしいことじゃないか。タイ、ザンビヤなど十年余の海外駐在生活中に地元合唱団に参加してたようだし、とにかく永く継続しているとゆうことは偉いよ。継続は力なりだ。

2 B: 佐藤さん。俺なんか日経に出るなんてこと、ありえないよネ、何処から聴き出したんだろう。

イタリヤ郊外でのホームステイは、日本イタリヤ協会がよく世話してくれてね、とても楽しかった。午前中はイタリヤ語の語学学校で会話と発声の勉強。午後は声楽の先生に歌の指導を受けました。

<いままで日本で習ったものは何だったのだろう。声の出し方が全く違うんだよ。>

NPO 歌曲研究会で頼まれて話してるが、もっと歌の本ちゃんが来て欲しいんだ。誰かいい人がいたら紹介して下さい。

- 12 3 A: 参ちゃん、ちょっと頼みがあるんだけどね。実は来週7月1日出発でニュテリーに行くことにしているんだ。早朝5時30分目覚まし電話をかけて欲しいんだ。お願い出来る？

4 B: OK, 了解。7月1日5時30分電話おかけします。

インドは、IT業界で米国、欧州との交流は盛んだね、アメリカへ問い合わせた電話の返事が、インターネットでインドから来ているとゆう話しも聞くね。英国の植民地時代に、各州ばらばらの言語を公用語として英語を導入したことが印度隆盛の要因で、英国人の偉業だと言われているね。印度人も感謝していると最近ムンバイを旅行した友人から聞いた。凄いの

は、最近の印度のバンバローに、アメリカGEが研究所を開設したが、インド人の4人に1人が博士号を持っており、ここのIT要員が15万人と急増して、米国シリコンバレイの12万人を飛び越したんだ。このため米ITエンジニアの25%位が失職に陥られ、平均給与もぐくん下がったとのことだ。イラク戦争以後いまや世界の地殻変動（sea change）が急テンポで進んでるが、これからインドが大マーケットとして成長すること間違いないね。

5 A：参ちゃん、宜敷く頼みます。

<依頼の機構>

行為の要求の前段階としての談話（1 A, 2 B）→事情の説明・行為の依頼（3 A）→要求の了解・行為の確認（4 B）→話題の収束（5 A）

<談話の特徴>

AとBはもと上司と部下で、今は友人としての付き合いをしているが、以前の関係が談話に反映していると考えられる。Bは実在の人物で、この談話の内容は実際にあった電話に基づいている。3ヶ月に一度ぐらいの割合で電話をするという。前半は近況をめぐる会話で、イタリアオペラ留学について、後半はAの旅行先について、話しているが、このような関係の友人の場合、Aがいきなり行為の依頼の要求をするとは考えにくい。AはBを褒めるが、行為の依頼の説得の手段というより、普段から饒舌で人をよく褒める性格が談話に反映していると推測できる。談話にはAとBの積極的で前向きな態度が反映している。

a. 依頼表現→「早朝5時30分目覚まし電話をかけて欲しいんだ。お願い出来る？」

受諾の表現→「OK, 了解。7月1日5時30分電話おかけします。」Aの行為の要求に対して、Bが快諾し、しかもすぐ復唱しているのはビジネス会話の名残と考えられる。またもと上司／部下の関係は「…お願いできる?」「…おかけします」に表れている。

b. 感謝の表現→「よろしく頼みます」（5 A）

（談話9）

A：18歳、女性 B：同年代、友人

1 A：あ、ねえねえ、私明日からXX行くから5時半に起こしてくれない?!

2 B：えー私そんな早く起これない（ママ）から無理。おみやげよろしくねー。

3 A：…。いーよ自力で起きるから！

<依頼の機構>

行為の依頼（切り出し・事情説明、1 A）→要求の拒絶（拒絶の理由の説明・贈り物の要求、2 B）→行為要求の撤回（3 A）

<談話の特徴>

これは十代の女子高生のやりとりであるが、Bは要求を拒絶しているにもかかわらず、お土産の要求をしている。

依頼表現→「私明日からXX行くから5時半に起こしてくれない?!」。[～くれない]という受給表現がみられる。

(談話10)

A : 29歳 イギリス人 女性 B : 父親

1 A : Hi, Dad

2 B : Hi. Are you ready for your trip?

3 A : Yeah, but I have to get up so early at 5:30.

4 B : Oh, yeah?

5 A : Yeah, can you call me when you wake up because I know you get up at about 5?

6 B : OK

7 A : Thanks

8 B : (maybe some other conversation goes on for about 10 mins.)

9 A : Okay then

10 B : Okay I'll ring you in the morning.

11 A : Thanks, bye

12 B : Bye

<依頼の機構>

事情説明 (3 A) → 行為の依頼 (5 A) → 要求の了解 (6 B) → 感謝の表明 (7 A) → 依頼行為の確認・感謝の表明・話題の収束 (9 A → 10 B → 11 A → 12 B)

<談話の特徴>

これは娘と父親との会話であるが、行為の依頼が直接的である。Aの依頼に対してBは快諾する。依頼の説得の仕方は "...I know you get up at about 5?"

依頼表現 → "...can you call me when you wake up..." ~ "Could you ~?" ほど丁寧ではない。

(談話11)

A : David アメリカ人 中年 B : David の妻

To My Wife

1 A : Hi, Yoko Could you call me at 5:30 in the morning California time? My flight back to Japan is really early.

2 B : Doesn't your hotel have a wake-up call service?

3 A : Yes, but I'm not sure if I can rely on them.

4 B : Can't you get your brother to wake you up?

5 A : He won't do it.

6 B : (In a martyr-like voice.) Well, OK. I'll call you at 5:30 a.m., California time.

14 7 A : Thanks. I love you.

8 B : I love you, too. Bye-bye.

(End of conversation.)

<依頼の機構>

行為の依頼・事情説明 (1 A) → 要求の婉曲な拒絶～質問 (2 B, 4 B) → 依頼の説得 (3 A, 5 A) → 要求の了解 (6 B) → 感謝の表明・話題の収束 (7 A, 8 B)

<談話の特徴>

夫のAは端的な依頼をするが、Bは何とか要求の拒絶がしたいが最後に消極的に受諾する(2 B, 4 B, 6 B)。

夫婦間の別れの挨拶は“I love you”であり、アメリカ的な愛情の確認表現である。

(談話12)

Aは母親(48歳)、Bは家を出て下宿している自分の娘

1 A: もしもし

2 B: あ、お母さん、何か用?

3 A: あのね、明日 例の旅行の出発日なんだけれどー

3 B: え、もう明日出発なの、忘れてた

4 A: 前から言ってたでしょ。それより、朝5時半におきなくちゃいけないのよ。

5 B: 何でそんなに早いのか?

6 A: とにかく、5時半なの。おくれると、皆に迷惑だからね。それで、朝電話くれない?

7 B: 私が起こすわけ、えー あまり自信がないなあ。他にだれかいらないの。

8 A: いれば頼んでます。お願いよ、あなた朝強い方でしょう。

9 B: 仕様がなあ、まあがんばってみるけどあまりあてにしないでね。

10 A: 絶対お願いよ。たのんだわよ。

<依頼の機構>

事情説明(3 A, 4 A, 6 A) → 行為の依頼・提案の提示(6 A) → 婉曲な要求の拒絶(7 B) → 行為の依頼の説得・受諾の要求(8 A) → 要求の了解(消極的)(9 B) → 要求の確認(話題の収束)(10 A)

<談話の特徴>

母親の会話であるが、BはAの依頼を快諾せず、受諾に消極的で(B)，最後にしぶしぶ了解する。それでもなお、「仕様がなあ」「あまりあてにしないでね」と逃げ道を作っておく(9 B)。母のAはBの発話「ほかにだれかいらないの」とは無関係に「いれば頼んでいきます」(8 A)と押し切る。依頼というより押しつけの感が強い。談話には日本人の消極性のほかに母親の力関係が反映していると考えられる。

(談話13)

A: 52歳、女性 B: 母

1 A: 明日、5時半に起こして

2 B: いいわよ、どうして?

3 A: バリに行くの

4 B: え? 何しに?

5 A: 仕事で、仕入れに行くのよ

6 B: 急ねえ、起こしに行ってくださいませんか? おにぎり持って

7 A: いい、いい、電話でいいから

8 B: そう、? バリ島? 津波とか大丈夫?

9 A : 大丈夫、とにかく5時半に起こして

10 B : わかった、5時半ね

<依頼の機構>

行為の依頼 (1 A) → 要求の了解・説明の要求 (2 B, 4 B) → 事情の説明 (3 A, 5 A)
→ 提案の提示 (行為の依頼の続き) (7 A) → 依頼の確認・話題の収束 (9 A, 10 B)

<談話の特徴>

この母娘は毎日電話をする仲であるが、ときどき娘は母とのやりとりがめんどうだと日頃言っている。Aは事情説明なしにいきなり行為の依頼をし(1 A), Bはそれに対して説明の要求をする(2 B, 4 B)。BのAに対する愛情表現として「起こしてあげましょうか? おにぎり持って」。他の談話でも見られるが、家族成員間の談話の特徴の一つは行為の依頼が直接的であることだ。最後にAはBに対して感謝の言葉を述べない。

(2) 自然な談話

ここでは自然な談話例を取り上げる。記号についてであるが、? : 上昇イントネーションの場合、// : 次の発話と重なる場合、x : 聞き取り困難な場合、等の記号を使用した。

(談話14)

A : John, Australian male (middle aged) B : Kazuko, Japanese female (middle aged)

1 A : Hello

2 B : This is Kazuko speaking

3 A : Hi, how are you

4 B : I'm fine. How about you

5 A : I'm okay yeah, not working today um xxxxxxxx summer vacation has just started.

6 B : Oh really. Have you finished all the marking, and things like that

7 A : Have I?

8 B : Finished all the marking?

9 A : Yeah yeah that's all finished, yeah

10 B : Oh really,

11 A : Yeah, yeah

12 B : Oh, that's good. Well actually um I have another exam to do tomorrow at another university

16 13 A : A-h

14 B : Yeah and that's the last working day for me

15 A : Oh that's good

16 B : Yeah, after that it's summer vacation and um yeah

17 A : What are you going to do

18 B : Well actually um I'm going to write um an article about oh in the area of sociolinguistics// I

- 19 A : Yeah
- 20 A : because I haven't written that uh that conversation you asked me to do. Does it have to be...is it too late to do //that?
- 21 B : Oh no, no
- 22 B : um do you still have time to do it
- 23 A : I think I can probably do it yeah. I've just been very busy'cos I've been working with my company um I have been //working
- 24 B : yeah
- 25 A : six days a week
- 26 B : You you still teaching?
- 27 A : Yeah I've started teaching at a school I've got the option of teaching every // summer
- 28 B : oh yeah
- 29 A : I can work if I want to
- 30 B : Yeah
- 31 A : And um if I do I get kind of like a double wage so
- 32 B : Oh that's great
- 33 A : Yeah anyhow so um
- 34 B : Oh yeah well um it's not actually late at all because the deadline for my paper is um September the 19th of September or something like that
- 35 A : A-h
- 36 B : Yeah so// um
- 37 A : I'll be
- 38 A : up to do it. I'm fully intent to do it I haven't done it yet
- 39 B : Oh thanks very much so um then um I think I wrote in the um directions that um you could select a friend or your family or um your girlfriend or boyfriend but um could you select a friend then
- 40 A : Yeah okay
- 41 B : Yeah
- 42 A : Yeah that's all right
- 43 B : Yeah
- 44 A : you mean as a like the other partner in the conversation
- 45 B : Oh yeah so that's that's you are A
- 46 A : Yeah
- 47 B : and that's// B
- 48 A : Okay
- 49 B : And also if you don't mind could you um tell me um your age and the person's age and the sex well I think I can figure out whether it's a man or a woman by the name but still yeah sometimes um I can't figure out whether it's a man or a woman
- 50 A : Yeah I'll make it clear like xxxxxx
- 51 B : Yeah yeh because I need that kind of data in sociolinguistics

- 52 A : Okay
53 B : Yeah oh that's great yeah um
54 A : All right
55 B : Oh that's great yeah
56 A : No problem.

<依頼の機構>

近況報告 (3 A→18 B) →依頼の未着手 (20 A) →行為の依頼 (21 B, 22 B, 34 B) →依頼の受諾 (再) (37 A, 38 A, 56 A) →感謝の表明 (39 B, 53 B, 55 B) ・行為の補足説明 (39 B, 47 B, 49 B, 51 B) →説明の了解と同意 (40 A, 42 A, 44 A, 46 A, 48 A, 50 A, 52 A) →話題の収束

<談話の特徴>

これは本稿のデータに使用する会話文の依頼をした後で、筆者がAにかけた督促の電話である。Aは未着手であり、仕事が忙しいので、できるかどうかわからないという含みのある発話をするが、38Aにみられるように“I'm fully intent to do it”(必ずやるよ)と約束する。次にみる談話15の話者と違ってやや遠慮がちで消極的だが、筆者には協力的である。

(談話15)

- A : Kazuko B : George American, male, 45, A's colleague
1 B : Hello
2 A : Oh hi George, how are you
3 B : Ah very good.
4 A : Oh that's great
5 B : Yeah.
6 A : Um
7 B : Sorry I haven't done your thing //yet
8 A : yeah
9 A : hahaha that's right that's the reason why I'm calling you. Is it already summer vacation for you
10 B : Yeah. It is. I've finished almost everything. How about you
11 A : Well, today was my last exam.
12 B : Uh huh.
13 A : Yeah //um
18 14 B : yokatta ne
15 A : Yokatta yeah. And um I went to the library after that. After having my students do my last exam in the morning and um I read a few books in the library today and came back. But um yeah summer vacation started for me too.
16 B : Ah Sorry?
17 A : Summer vacation started for me //too
18 B : Oh good

- 19 B : yeah,
20 A : Yeah
21 B : Too short, isn't it
22 A : Too short?
23 B : Ah well, yeah //ha ha ha
24 A : ha ha ha
25 A : you you mean
26 B : I'm watching my kids.
27 A : You're watching your kids?
28 B : Yeah
29 A : During the// vacation?
30 B : Yeah
31 A : Oh yeah playing with them
32 B : Yes, taking care of them, eating them um
33 A : Ha ha ha
34 B : Tickling them
35 A : tickling them yeah. And are they going to tickle you //too?
36 B : Ha ha ha
37 B : Maybe yeah, ha ha ha
38 A : Okay, all right um. Do you think you have time to do that conversation thing //for me
39 B : I will
40 B : definitely.It's there I'm sorry it's just total laziness// um
41 A : oh
42 A : It's okay, well um actually the deadline is Sep-September 19th.// So um
43 B : Oh, oh
44 A : Yeah// still
45 B : oh
46 B : In that case then I'll definitely do it yeah
47 A : I'd really appreciate if you// do it
48 B : I'll
49 B : definitely do it
50 A : Yeah. and um so if I can write the thing my paper
51 B : I'll do it tomorrow
52 A : Yeah if I write my paper during August I think //I could ask you to look at it 19
after that.
53 B : yeah
54 B : Ha ha yeah, if you just e-mail it to me
55 A : Yeah
56 B : As part of a message
57 A : //Right

58 B : Look it over, sure.

59 A : Uh huh

60 B : Be glad to.

61 A : Oh thanks

(10 minute conversation)

62 B : Well okay well take care, I'll get that done as soon as possible

63 A : Thanks, // yeah

64 B : Yeah

65 A : Okay I'll keep in touch. Bye.

(end of conversation)

<依頼の機構>

謝罪 (7 B) → 近況報告 (9 A ~ 37 B) → 行為の再依頼 (38 A) → 要求の了解 (40 B, 46 B, 48 - 49 B) → 感謝の表明 (47 A) → 異なる行為の依頼 (論文の校正) (52 A) → 要求の快諾 (54 B, 56 B, 58 B, 60 B) → 感謝の表明 (61 A) → 要求の了解 (再) (62 B) → 感謝の表明 (63 A) → 話題の収束

<談話の特徴>

これは事前に本稿の会話分を書いて、論文のデータの収集に協力してほしいという行為の依頼をめぐっての督促の電話である。Bは督促に対して積極的に応対し、自分から話題をすぐに持ち出し、謝罪をする。また、要求の了解の表現も "I'll definitely do it". というような表現をしている。A (筆者) は電話した理由はそのことだと言って、すぐ近況に話題を切り替える (9 A - 37 B)。これは、ポライトネスの観点から、ビジネスの電話ならともかく、単刀直入に用件だけをすませるのが失礼なのと、友人の近況への関心からと考えられる。Bは論文のチェックをしてほしいという異なる依頼に対しても積極的に応答する (52 A - 61 A)。AとBの談話は互いに積極的で前向きである。

(談話16)

A : Kazuko B : Yuri

1 B : はい

2 A : あ、ゆりちゃん、ショコラ//です。

3 B : ごめん、ごめん、きのうちよっとすごく遅くなっちゃって

4 A : //うん

5 B : あ、

20 6 B : こちらから電話すると言ってて//ごめんね

7 A : あ、いいいい、

8 A : いま大丈夫?

9 B : うん、あのなあに

10 A : あ、うん、元気?

11 B : あ、元気、元気

12 A : うん、あたしもそうなんだけど、なんか 忙しくてという感じで、ゆりちゃんどう

しているかなと//思っ

13 B: あ

14 B: どたばたしている

15 A: あ そうだね

16 B: きのうもちょっと研究会があつて

17 A: //うん

18 B: そうしたら

19 B: 夜遅くなちゃって

20 A: あほんとに それでね、実はね、今日お電話したのは、わたしあの一、ええと、言語学の論文をね、書いてて

21 B: なんか前言っていたね

22 A: そうそう、それで、データを収集しているんだけど、あの ゆりちゃんにね、できれば、あのう、なんていうか、会話をねえ あのう、書いてほしいんだけど、いいかな

23 B: いいよ、あのこの間、ね、その話してたから

24 A: うん、それでね、テープレコーダーで録音するのはまたお願い、また違う機会にお願いすると思うけれども、あのいちおう、なんで言うか、ある状況で二人の人物があのようなう言うか話していることを前提にしてそれであの、書くんだけど//ええと

25 B: 書くの

26 A: 書くのね、そうなのだから別に録音するわけじゃないんだけど、うん、それでもし、じゃ、あどうしようか、e-mailでね、その状況を送って//いい

27 B: あ、いいよ、

28 B: 送ってね あ、何、書き出すの

29 A: そう、あの、なんて言うか、シナリオみたいにして書くの、で、ゆりちゃんがAでどういう状況かていうと 簡単に説明すると 海外旅行に行くのに 友達に5時半に起こしてもらいたいという電話をするのね うん それで、それを想定しておねがいの電話をするんだけど、ええとゆりちゃんがAで Bが友達でという感じで どんなやりとりが想像できるかというのを書いてほしんだけど、という//感じ

30 B: え

31 B: 想像なの?

32 A: 想像でいいの うん じゃちゃんとした状況をe-mailで送るね

33 B: あ、そうしてね

34 A: うん

35 B: xxx読んで、であたしね あさってぐらいから山に行くんだけど どうしようか

36 A: そうだね 別に山から送ってもらってもいいんだけど ファックスとかであ あのう

忙しなくなければ ええとそうね 山からでもいいよ

37 B: 何日ぐらいまで

38 A: あ、いちおうデータはそうね ええ ま できれば早い方がいいけれども、うん ゆりちゃん何日ぐらいまでに書ける?

- 39 B : まだ様子みて、まだどたばたしているんで 様子みながらだけれども
 40 A : うん
 41 B : xxx 2 ~ 3 日ぐらいあれば
 42 A : 一週間ぐらいだったらオーケー
 43 B : 十日か一週間ぐらいあれば大丈夫
 44 A : あ、ほんと うん わかった じゃ そのつもりで じゃあの e-mail 送るね
 45 B : xxxxxxxx
 46 A : そうね ありがとう すごい助かる
 (他の話題が続く)

<依頼の機構>

近況報告 (10 A → 19 B) → 事情説明 (20 A) → 行為の依頼 (22 A) → 要求の了解 (23 B)
 → 要求の説明 (24 A → 44 A) → 感謝の表明 (46 A)

<談話の特徴>

この談話は本稿のデータ収集のための会話文を書いてほしいという筆者のBに対する依頼の電話の一部である。Bは幼なじみであり、今でも交際がある。Bは仮説のための典型例(談話2)で紹介したAと同じ人物である。自然な談話などで、作為例とは異なるが、Aの端的な依頼に対するBの快諾(23 B)がみられ、また締め切りを自分から聞き出すなど、典型例にあらわれた積極性がそのまま表れている。事前に筆者は録音データを取るから協力してほしいという依頼を電話ではなく、直接会ってしたことがあるが、そのときも快諾してくれた。事前にこのような話をしていたので、交渉がスムーズに進んだのは確かである。日本的な根回しと呼んでもいいだろう。談話は会話の記述の必要性(24 A, 28 B), 会話の状況説明(29 A), 記述は想像に基づくこと(29 A, 31 B), 記述の仕方の送付確認(32 A, 44 A), 締め切りの交渉(35 B → 43 B)という流れで進む。

4 考察

(1) 表現および談話の機構と変数との関係

(1-1) 依頼の表現

依頼の表現は次の通りだった。

<英語>

- 談話 1 - 11 A Can you possibly give me a wake up call at 5:30?
 But if you could call me, that would be great!
 22 談話 4 - 1 A Could you call me at my hotel at 5:30 tomorrow morning?
 談話 5 - 3 A Say could I ask you a huge favor?
 5 A Could you give me a wakey wakey call round about that time mate?
 談話 10 - 1 A Yeah, can you call me when you wake up because I know you get up at about 5?
 談話 14 - 18 B Well actually um I'm going to write um an article oh in the area of sociolinguistics...

談話15-38 A Do you think you have time to do that conversation thing for me?

英語の談話例を見ると、Could you? (談話4, 5) という依頼の丁寧な定形表現を使用し、その他、少し丁寧度に欠ける Can you? という依頼表現が二件あった (談話1, 10)。そのうち、談話10は娘が父親に電話で起こしてほしいという会話である。筆者がかかわった生の談話例 (依頼の行為の督促の会話) では、このような定形表現ではなく、それとなく依頼をほのめかす表現 (談話14「夏休みに何をすすすのか」という質問に対し、「社会言語学の論文を書く予定」という発話)、それから談話15の婉曲な依頼 (「あの会話の課題を書く時間はあると思うか」) をしていたのがわかった。それから筆者のくせであるが“um”と言っつつかかかた話し方をしていたが、これもポライトネスの一つの尺度だと考えられている (Watts2004)。

<日本語>

談話2-9 A (そうだね!) あ それから明日はやいんだけど 起こしてくれない?

談話3-5 A いや、ちょっと悪いんだけどさ

7 A 明日の朝起こしてくれない? モーニングコールってやつ

談話6-3 A 悪いけど その時間に電話で起こしてくれないかな??

談話7-1 A 申し訳ないけれど、電話で起こしていただけないかしら

談話8-3 A 参ちゃん、ちょっと頼みがあるんだけどね。早朝5時30分目覚まし電話をかけて欲しいんだ。お願い出来る?

談話12-6 A それで、朝電話くれない

談話13-1 A 明日、5時半に起こして

談話16-22 A …できれば あのう なんていうか 会話をねえ あのう 書いてほしんだけれども いいか な

日本語の談話例をみると、わびの表現のあとに、行為の依頼をしているのが3件あった (談話3, 6, 7)。そして友人、家族にかかわらず「～くれない」という受給表現が使われていたほか、72歳の女性の発話で、「～ていただけないかしら」という「～てもらおう」の謙譲語が使われていて (談話7)、「～てもらおう」よりも丁寧な印象を与える (cf.松岡2000)。また「～欲しいんだけども」「～欲しいんだ」というより端的な依頼の表現もあった (談話8, 16)。敬語の使用があまりないのは依頼する相手が友人や家族であったからだと考えられる。

(1-2) 事情説明と行為の依頼の順序

英語母語話者で、友人に依頼をしている場合は、二件あったが、談話1と談話4に見られるように、滔々と事情説明をして、行為の依頼をするパターンがみられた。作為例のみならず、生の電話の会話 (談話14) も筆者が友人に依頼内容を説明をしている発話を見ると、同様の傾向がみられた。ただし、談話14は、状況設定が、督促の電話なので、筆者が行為の依頼の事情説明を再度確認する発話の流れの中で、このような傾向がみられた。

それに対して、自然な電話の談話例として談話15が挙げられるが、これも依頼の督促だったが、発話をする者同士、事前に共通理解があるので事情説明があまり必要がない場合と

考えられる。

友人に対しては、このような依頼の傾向がみられたが、家族に依頼する場合、滔々と説明するというよりは、簡潔に説明し、依頼をするという傾向がみられた。談話4は行為の要求に対する拒絶という応対がみられたが、発話者がカリフォルニアにいて、飛行機に乗らなければならないということはわかっているの、とくに滔々と説明する必要がない（談話4-14で“I have to catch my flight back to Japan really early tomorrow”）。また談話11は談話4と同じ発話者が妻にかけける電話で、やはり行為の依頼が先であるが、依頼者の状況が事前にわかっている。

何らかの説明なしに唐突に依頼するパターンは談話11で妻が依頼の対象以外は、英語の談話にはみられなかった。また、談話11の例では、事情説明が行為の依頼のすぐあとに続く。

英語の談話のように滔々と事情説明をしてから依頼するという段取りを踏む場合は、日本語において、二件だけみられた。それは談話6の18歳の男性の会話と談話7の72歳の女性の会話である。どちらも性格的にいうと積極的なタイプの日本人という印象を受ける。

事情説明なしに唐突に依頼する発話は談話3と談話12である。談話3（22歳男性）は会話の内容から判断すると発話者同士が依存性が高い者同士であり、論理的な説得という段階を経ないで、依頼をする場合である。談話12は53歳の女性とその母との会話であるが、毎日電話をする仲であり、依存性の強い母娘間の談話例である。娘は「うっとうしい」と言っている。いずれにせよ、唐突に依頼をして、そのあとで依頼される側が説明を引き出すパターンは相手に依存する傾向が強い者同士にみられた。

(1-3) 感謝の表現

行為の依頼に対して、要求の了解がみられた談話がほとんど（16件中14）であったが、その中で、英語の談話の場合は要求の了解のあとで、全ての例で感謝の表現があった。

- 談話 1 - 13 A Thanks darling!
 談話 5 - 9 A Thanks, later man.
 談話 9 - 11 A Thanks, bye.
 談話 11 - 7 A Thanks, I love you.
 談話 14 - 53 B Yeah oh that's great yeah um
 55 B Oh that's great
 談話 15 - 63 A Thanks yeah

24 英語の談話では、本来の謝罪の場合（談話15-7B）以外は謝罪表現はなく、また恐縮の意味でのわびの表現はなかった。談話16は自然な依頼行為の督促の電話であり、依頼された側はその行為を未だ遂行をしていないことについて謝罪をしている。

日本語の談話において、事情説明を滔々として依頼する場合、要求の了解の後で、欧米式に必ず感謝の表現がみられた。談話2、談話6、談話7、談話16等の場合である。いずれも性格的に積極的（談話6、7）また談話16の筆者はバイリンガルでもともと積極的な性格なので、談話に反映していると思われる。また談話16はより複雑な発話者間の交渉が必要なので、このことも影響していると推測できる。

要求の了解の後で、感謝の表現が全くない事例は三件みられた。談話3、談話12と談話

13である。談話3の会話は依存性の強い者同士の会話であることは既にみたが、自立した個人間の会話とは言いがたい。談話12と13は家族の成員同士の会話であるが、談話12では、母親が娘の婉曲な拒絶を押し切るように会話をすすめる。談話13では、娘がいきなり行為の依頼を母にし、母親の質問に対し事情を説明していくという場合で、いずれも他人への依頼の場合とは違って、相手への依存度が強い。とくに、談話12と13の事例では、行為の要求のあとに感謝の表現がないが、行為の依頼に際し、わびの表現もなかった。

要求の了解に対して、依頼者による感謝の表現があっても（4件）恐縮を意味する謝罪の表現はみられなかった。つまり、要求の了解のあとで、「ありがとう」という発話あるいは類似の意味の発話があっても、「すみません」という表現はなかった。

日本語の談話の場合に恐縮の意味での謝罪の表現と依頼表現の共起がみられるのも一つの傾向であった。二つの例であるが、談話6-3A「悪いけどその時間の起こしてくれないかな〜?」と談話7-1A「申し訳ないけれど、電話で起こしていただけないかしら」の場合である。談話6の依頼者は18歳の男性であり、談話7は72歳の女性だが、年齢差に関係なく、このような共起がみられた。

(1-4) 力関係と談話

かつて上下関係がはっきりと異なる元上司と部下との談話が、談話8の例であるが、この力関係が元上司の端的な依頼の仕方ともと部下の受諾の仕方に反映されている。また家族の成員同士で力関係が顕著にあらわれている例として、談話12があげられる。談話12は娘が婉曲に依頼を断ろうとしているにもかかわらず、母親が強引に押し切ってしまう例であることはみた。他にも発話者同士の力関係が存在するのであろうが、談話例を比較しただけでは判断できず、概して友人同士の場合、対等な関係であるようだ。

(1-5) 土産という対価の要求

お土産の要求（談話3-32B, 談話9-2B）や約束（談話2-15A, 談話6-5A）は日本語の談話での一つの特徴であった。談話の状況設定が「海外旅行に行くので5時半に電話で起こしてほしい」というものだったので、日本におけるお土産のやりとりが、談話の会話に反映された。依頼の受諾に対する、対価の要求または約束とも捉えることができる。いずれも、友人に行為の依頼をした場合にみられた。英語の談話にも、お土産の要求の事例があった（談話5）が、文脈から判断して、事前の冗談のやりとりからして、半分冗談とも解釈できる。日本語の談話の数が英語より多かったが、それでも「土産」は日本文化において、旅行にはつきもので、このような談話の状況設定では、対価の要求あるいは約束の対象として自然に登場すると考えられる。またお土産が頼みやすい文化的背景として、土産の互酬性があげられる。つまり、お土産をもらった側は、またお返しをするという習慣である。また、お返しは土産だけに限った習慣ではない。このようなお土産の互酬性は個人間あるいは集団間の相互関係が更新、持続される。従って、対価の要求とだけ捉えるのは短絡的である。

25

(1-6) 友人と家族のとの差異

日英双方とも、友人に行為を頼む時の依頼の仕方と、家族に頼む場合の依頼の仕方とは、

差異がみられた。それは遠慮の有無が談話の発話の表現の直接性などに表れていた。

(1-7) 英語の母語話者の国籍の違いと談話

英語の母語話者はアメリカ人(2), オーストラリア人(1), カナダ人(1), イギリス人(1)だったが、談話の傾向の違いが個人差によるのか、国籍によるのかは特定できなかった。

(1-8) 性別と年齢

性別と年齢という変数の差異は、とくに機構の差異に影響を及ぼすという結果は得られなかった。

談話の差異に関しては、例えば言語表現などは、個別にみると、性別の差異が明白な場合と比較的そうでない場合とにわかれた。年齢的な差は日本語の談話の場合10代の女性の1例(談話9)と72歳の女性の例(談話7)では差がみられた。

(2) 仮説の検証

<英語の談話>

英語の談話においてほとんどの例が概ね、仮説で立てた機構のパターンを辿ることがわかった。

事情説明→行為の依頼→要求の了解→感謝の表明

(例外：作為例→談話11)

<日本語の談話>

仮説で立てた機構のパターンとほぼ一致した。

1. 事情説明→行為の依頼→要求の了解→感謝の表明
2. 行為の依頼→事情説明→要求の了解

事情説明が行為の依頼に先行する場合、仮説では、事前発話としての近況報告等という段階が最初にみられたが、検証の段階で必ずしも共通項ではなかった。

26 談話の詳細を検討することにより、事情説明と行為の依頼が前後する場合や、質疑応答の段階を踏んで事情説明をする場合などにはどのような事例があり、機構の背後にどのような発話者の性格や力関係、依存関係、社会的距離があるかについて述べた。忘れてはならないのは、今回考察した機構の特徴はあくまでも、「海外旅行に行くので、5時半に電話で起こしてほしい」という種類の依頼であることだ。機構とそれとかわる文脈の様々な変数との関係を概観することができた。概して言うと、発話者が積極的な日本人の場合は依頼行為が(1)の機構をたどり、他者への依存性の強いとみられるような日本人(cf.土居1971)や家族の成員間の時の談話は(2)の機構のパターンの流れをたどる傾向がみられた。また、作為例を書いた本人が積極的にみえる性格にもかかわらず、消極的な態度で相手と接する談話を書いた例も見受けられる(例えば典型例(a-2)ので、書き手が必ずしも積極的、ある

いは、消極的な性格の日本人であると判断するのは危険であり、あくまでも、書き手が想像した、体験に基づく「ありがちな談話」と捉えた方がいいかもしれない。

従って、日英で特に差異がみられたのは事情説明と行為の依頼の順序とその仕方、そして要求の了解のあとの感謝の表現の有無であった。

5 結論

以上、ある状況を設定してインフォーマントに書いてもらった談話の作為例と自然な談話の事例における機構を考察した。自然な会話を中心の研究が理想的であるが、談話2の話者は談話16（自然な談話－会話文作成の依頼）の発話者、また談話5と談話16（自然な談話－依頼の督促）とは、同じであるが、行為の依頼に対して、「快諾」をするという傾向、積極的に相手とかかわろうとする傾向は同じであったので、作為例でも、ある程度、本人の談話のパターンの何らかの傾向が反映されると考えられる。もし、談話と同じような相手と状況でまったく異なる会話をする場合、作為例には、本人が持っている談話の規範に関する意識が反映していると考えられる。会話をする状況と相手によって機構は変化すると考えられるが、本稿ではある状況を設定し、相手が友人と家族の場合の談話の機構を考察した。もちろん、談話内容は「こうあるべきだ」という発話者が持っている規範と、実際の内容のずれも考慮にいれなければならない。これは、例えば、文化人類学のフィールドワークで、インフォーマントが語る内容と現実のずれがある場合と同じである。また、談話の事例が限られ、母集団が小さいのも本論の一つの限界であるが、今後の課題である。

談話の詳細なデータを提示することにより、日本語と英語における依頼の機構の一側面が浮き彫りにできれば幸いである。

註

1. 「海外旅行に行くので朝電話で5時半に起こしてほしい」という依頼は家族や友人、恋人にしても、職場の上司等のような関係の人にするとは考えられないので、依頼する相手はこのような関係の人物に限った。
2. 談話例の記述をする際に、オリジナルな記述の忠実な再現をするために、表記の統一は避けた。従って誤記はそのまま訂正していない。

引用文献

- Austin, J.L. 1962 *How to do things with words*. ed. J.O. Urmson, London: Oxford University Press.
- Bauman, R. & Sherzer, J. 1989 *Explorations in the Ethnography of Speaking*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Blum-Kulka, S. (et al eds.) 1989 *Cross-Cultural Pragmatics: Requests and Apologies*. New Jersey: Ablex.
- Brown, P. & Levinson, S. 1978 *Politeness*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 土井建郎 1971 『「甘え」の構造』 弘文堂.
- Fukushima, S. 2000 *Requests and Culture*. Bern: Peter Lang.
- Grimshaw, A.D. 1989 Data and Data Use in an Analysis of Communicative Events. in R. Bauman and J. Sherzer (eds.) *Explorations in the Ethnography of Speaking*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 庵 功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 2000 『日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク.
- Luke, K.K. & Pavlidou, T. 2002 "Studying telephone calls: Beginnings, developments and perspectives" in Kang Kwong Luke (ed.) *Telephone Calls*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

- Matsumoto, Y. 1988 'Reexamination of the universality of face: politeness phenomena in Japanese.' *Journal of Pragmatics*.12 (4) :403-26.
- 中道・土井 1995「日本語教育における依頼の扱い」『日本語学』Vol.14 pp.84-93.
- レヴィンソン, S.C. 1990『英語語用論』研究社.
- 佐々木倫子 1995「依頼表現の対照研究—英語の依頼表現」『日本語学』Vol.14 pp.61-68.
- スタップス, M. 1989『談話分析』研究社.
- Watts, R.J. 2004 *Politeness*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Wierzbicka, A. 2003 *Cross-Cultural Pragmatics*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- 山本雅代 1991『バイリンガル』大修館書店.
- Yotsukura, L.A. "Reporting problems and offering assistance in Japanese business telephone conversations." in Kang Kwong Luke (ed.) *Telephone Calls*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

6 付録

談話 1

- 1 A: こんにちは ケリー 元気?
- 2 B: うん 元気よ あなたは?
- 3 A: うん 旅行の準備をしているんだけど もう出発するところよ。
- 4 B: そうだったわね あした出発するのよね どううきうきしている?
- 5 A: 本当のことを言うと、考える暇もなかった。複雑な気持ち。
- 6 B: 大丈夫。家でくつろいで、家族と友達とゆっくり過ごしていらっしい。
- 7 A: あなたのことを考えている。ところで、飛行機は9時発なんだけど…
- 8 B:ほんと、そんなに早く? すると成田には7時に着いていないと
- 9 A: そう、そして起きられるかどうか心配、遅くとも5時半には起きなきゃ
- 10 B: それは大変
- 11 B: だからお願いがあるの。5時半に起こしてくれない。目覚まし時計を5:00にかけておくけれど、ぎりぎりまで寝ているわ。でももし電話をかけてもらえるなら大助かり。仕事に行くのに早く起きているでしょ。
- 12 B: もちろんよ、喜んで起こしてあげて、旅行に間に合うようにしてあげる。
- 13 A: ありがとう。頼りになるわ。
- 14 B: それじゃ、早くねないとね。
- 15 A: おやすみ、ありがとう。もちろん連絡する
- 16 B: おやすみ。

以下は被験者に書いてもらうように依頼した架空の会話である。一つ目が兄(談話4)と、二番目は妻(談話11)との会話である。二つともぶっきらぼうだが、かなり現実的だと思う。また会話の前提は、私がロス・アンゼルス空港の近くのホテルから電話をかけていて、妻は日本にいる。

28 談話 4

- 1 A: やあ、ジョン。明日日本への飛行機に早く乗らないといけないんだ。明日、朝5:30にホテルの部屋に電話をかけられないかな?
- 2 B: 君のホテルはモーニング・コールのサービスはしていないのか?
- 3 A: しているけれど、あてにできるかどうかわからないんだ。
- 4 B: じゃ、それをあてにするか、閉まる前にKマートにでも行って、目覚まし時計も買うんだな。君のために5:30なんておきないよ

談話11

- 1 A：洋子、明日の朝、カリフォルニア時間で5時半に電話をくれないかい。飛行機が早く発つんだ。
2 B：あなたのホテルはモーニング・コールのサービスはないの？
3 A：あるけど、あてにできるかどうかわからないんだ。
4 B：お兄さんは起こしてくれないの？
5 A：いや、だめだって。
6 B：（ちょっとためらいがちな声で）じゃ、わかったわ。5:30に電話をしてあげるわ。カリフォルニア時間ね。
7 A：ありがとう。愛してるよ。
8 B：私もよ。バイバイ。

談話5

- 1 A：やあ、ステュアート、ジョージだ、どう元気？
2 B：まあまあだ。長い仕事の一日が終わったところだ。
3 A：実は是非頼みたいことがあるんだ。
4 B：借金じゃないよね。アハハ
5 A：いやそんなんじゃないよ、でも借金でも頼みたいところだけだね。ハハハ
いや、真剣な話、明日の朝、アメリカ行きの飛行機に乗れるように、5:30に起きなきゃならないんだ。その頃に、モーニング・コールをしてくれないか。目覚まし時計はかけておくけれど、安全策として、電話をかけてくれば、たずかるんだけど。
6 B：もちろんいいよ。目覚まし時計をかけて、電話するよ。君がアメリカから帰ってきたとき、お土産でももらえるのか。
7 A：もちろんさ、何か甘いものとか、パンケーキにかける有名なニューイングランドのメイプルシロップでもどう？
8 A：そいつはいいや。楽しんで来いよ。
9 A：ありがとう。またな。

談話10

- 1 A：あ 父さん
2 B：こんちわ もう旅行の準備はできているかい？
3 A：うん、でも、早くに、5時半に起きないといけないの。
4 B：え、ほんと
5 A：そう。起きたら電話くれない？ 5時に起きているでしょ。
6 B：いいよ。
7 A：ありがとう。
(会話が10分ぐらい続くと思われる)
8 A：じゃね。
9 B：わかった。朝、電話するよ。
10 A：ありがとう。さようなら。
11 B：さようなら。

談話14

- 1 A：もしもし

- 2 B : 和子だけど。
3 A : どう、元気？
4 B : 調子はいいですよ。ジョンはどう？
5 A : 元気だよ。今日は仕事していないし、夏休みが始まったばかりで…
6 B : あ、ほんとう。採点や他のことは全て終わった？
7 A : 僕が…
8 B : 採点が終わった？
9 A : うん、それは終わっているよ。
10 B : あ、ほんと。
11 A : うん。
12 B : あ、それはいいね。実は、明日、他の大学で試験をしなきゃいけないんだけど。
13 A : あ、そう。
14 B : うん。そしてそれが仕事の最終日なんだけど。
15 A : それは、よかったね。
16 B : うん、そしてそのあと夏休みのな
17 A : 何をする予定？
18 B : 実は社会言語学の分野で論文を書く予定なんだけど…
19 A : うん、
20 A : というのは、と頼まれた会話文をまだ書いていないんだけど、それは、もうやるのは遅いかな
21 B : いいえ
22 B : いいえ、まだ時間はある
23 A : たぶんできえると思う。ただ会社の仕事で忙しかったんだ。
24 B : うん
25 A : 一週間に六日働いているんだ。
26 B : まだ、教えているの？
27 A : そう、学校で教え始めたんだ。
28 B : そう
29 A : 毎年教えられるんで、仕事がしたい時できるんだ
30 B : うん。
31 A : そうすると、給料が二倍入るんだ。
32 B : それはすごい！
33 A : それで、あのう…
34 B : いや実は遅くないというか、論文の締め切りが9月の19日かそこらだから。
35 A : あ
36 B : そう、だから
37 A : やるよ、
38 A : やるつもりでいるよ、やってないだけだ。
39 B : あ、ありがとう。説明に書いたように、友人でも家族でも、恋人でも会話の相手として選べるんだけど、会話の相手を友人にしてくれる？
40 A : あ、いいよ。
41 B : うん
42 A : あ、いいよ
43 B : うん

- 44 A：会話の相手としてだろう？
45 B：そう、ジョンがAで、
46 A：うん
47 B：そしてB
48 A：わかった
49 B：そしてもしさしつかえなければ、年齢と相手の年齢と性別と、ま、大体名前で男性か女性かわかるけれど、ときどきわからにときもあるし…
50 A：うんXXXXはしっかりしておくよ
51 B：うん、とうのは、社会言語学ではそのようなデータが必要だし
52 A：うん
53 B：うん、助かった
54 A：いいよ。
55 B：いや、ありがとう。
56 A：たいしたことないよ。

談話15

- 1 B：もしもし
2 A：あ、ジョージ、どう元気。
3 B：あ、調子、いいよ。
4 A：それは、良かった。
5 B：うん
6 A：うん
7 B：ごめん。まだ、君の課題やっていないんだ。
8 A：うん、
9 A：ハハハ。電話したのはそのことでなんだけど。もう夏休みでしょ？
10 B：うん、大体全て終わったよ。君は？
11 A：今日、最後の試験をやったの。
12 B：あ、そう。
13 A：うん。
14 B：よかったね（日本語で）
15 A：よかった（日本語）ほんと、そしてそのあとで図書館へいったの、朝、学生の最後の試験があってそのあとで、今日図書館で何冊かの本を読んできたの。私も夏休みが始まったところ。
16 B：え、何。
17 A：私にとっても夏休みが始まったところなの。
18 B：あ、
19 B：それはよかった。
20 A：うん
21 B：短いよね。
22 A：短い？
23 B：うん、まあ、ハハハ
24 A：ハハハ、
25 A：というのは…
26 B：子供のめんどうをみるんだ

- 27 A : あ、子供のめんどう
28 B : そう
29 A : 夏休みの間
30 B : そう
31 A : 一緒に遊ぶの？
32 B : うん、世話をしたり、食べたり
33 A : アハハ
34 B : くすぐったり
35 A : くすぐって、くうすぐられるでしょ
36 B : ハハハ、
37 B : もしかしたらね、ハハハ
38 A : わかった、それで、あの会話を書く時間ありそう？
39 B : もちろん
40 B : やるよ。そこにいあって、ごめん、ただの怠慢だ
41 A : うん
42 A : いいよ、実は締め切りは9月の19日だから…
43 B : あ、そう
44 A : でも
45 B : あ
46 B : その場合、必ずやるよ。
47 A : 感謝してる
48 B : ぼく
49 B : 必ずやるよ
50 A : うん、それで、書ければ、論文を
51 B : 明日、やるさ
52 A : 8月に論文が書ければ、論文のチェックをお願いできると思うんだけど…
53 B : うん
54 B : ハハ、うん、メールさえしてくれれば
55 A : うん
56 B : メッセージの一部として
57 A : わかった
58 B : みておくよ、もちろん。
59 A : うん
60 B : 喜んでやるさ
61 A : あ、ありがとう
(10分の会話)
32 62 B : じゃ、元気でね、できるだけ早くやるよ
63 A : うん、ありがとう
64 B : うん
65 A : じゃ、また連絡を取るから、さようなら。

(受理 平成17年9月19日)